



北斎漫画の伝承版木と摺りあがった作品

(北斎漫画15編15丁)

葛飾北斎画 芸艸堂蔵

江戸時代にたくさん作られた浮世絵版画や版本の印刷原版である版木は、火災や戦火などにより失われたものが多く、現在残っているものはごくわずかだといわれています。

その中で、江戸から明治時代にかけてのロングセラー「北斎漫画」の版木は複数の版元の手を経て大切に伝承されており、近年細心の注意を払って新たに摺られました。時を経た版木と現代の職人技によってよみがえった、葛飾北斎の筆づかいを見ることができます。

(特別展「北斎漫画 一江戸伝承版木を摺る」で展示)

特別展

葛飾北斎生誕250年記念

北斎漫画

－江戸伝承版木を摺る

2010.4.23(金)～5.30(日)

江戸時代の著名な浮世絵師・葛飾北斎は、宝暦10年（1760）に江戸で生まれました。北斎というと富嶽図の錦絵がよく知られていますが、6歳のころから物を描き写すようになった、と自ら言っているように、役者絵にはじまって美人、歴史人物、宗教画、名所風景などあらゆるものを描いています。ジャンルにとらわれないだけでなく、肉筆画から一枚物の錦絵、読物や狂歌本の挿絵など幅広い層の人々を対象とした作品づくりをし、また洋画の遠近法などの技法も吸収して建築物図や風景画に生かすなど、89歳で亡くなるまで描くことへのこだわりを見せており、早くから外国人にも注目されました。

今回紹介する「北斎漫画」は、北斎があらゆるものを描いたことを端的にもの語る作品です。現代の「漫画」のイメージとは異なり、「さまざまなものを漫然とよせ集めたイラスト集」と考えたほうがよいでしょう。北斎は、全国の絵を学びたい人たちに葛飾流の絵を広めることを意識して、手本となるようなこの画集を刊行したようです。

人のさまざまな姿態、職業や風俗のほか、細密な写生画ともいえる動植物、名所等の景色と天候の違いによる風景の描き分け、宗教画、妖怪などの戯画まで混在しており、一人の人物が



「三つ目の眼鏡」と「ろくろ首」図
(北斎漫画12編13丁裏・14丁表)

描いたものとは思えないほどバリエーションに富んでいます。名古屋の版元（出版社）・永楽屋から文化11年（1814）に第1編が、その後江戸の版元・角丸屋との共同出版をへて、北斎が没した嘉永2年（1849）頃までの35年間に14編まで刊行されました。さらに30年後の明治11年（1878）に他の絵手本から採録した図と名古屋の絵師に描かせた図をあわせて第15編が刊行されるほど、長期間にわたる需要があった本です。

今回は、木版印刷を現在も手がける芸艸堂が所蔵する江戸時代の版木を使って、近年摺りなおされた北斎漫画の図版130点余とともに、伝承された版木約50点をご覧ください。輪郭線となる主版と色版では版木の厚さや彫り方が違うことや、版木を有効利用しているようすから、江戸時代に花開いた出版文化を支えてきた職人技と当時の出版事情を垣間見ることができるでしょう。



北斎漫画 再摺本

関連行事

◆「浮世絵の摺り実演と体験」

5月15日（土）、16日（日）

10：30～、13：00～、15：00～

浮世絵木版画彫摺技術保存協会員 伊藤達也さん

※大錦版浮世絵の摺り実演の後、カード判版木を使って便箋・封筒の摺り体験ができます。

※体験は特別展観覧者に限り、各回先着20名、材料費100円。

◆展示説明会

4月25日、5月2日・23日（日）

各11：00～、14：00～ 当館学芸員

※特別展観覧者は、自由にご参加いただけます。

岐阜市・富山市都市間交流事業 特別展

美濃と越中を結ぶ考古展Ⅱ

城と都市

－遺跡から見る戦国と江戸－

2010.7.16(金)～8.29(日)

「岐阜市・富山市都市間交流事業」特別展の第2弾として、昨年に引き続き開催する展覧会です。昨年の展覧会では、岐阜と富山の交流の歴史を2万年以上のむかしにさかのぼってたどりましました。今年度は、岐阜・富山ともに近年盛んになっている城郭や城下町の発掘調査から、戦国～江戸時代の美濃と越中をご紹介します。

岐阜市で城跡の調査といえば、最近では信長居館跡の発掘調査がクローズアップされていますが、戦国時代の城館として、美濃守護の土岐氏の館も忘れられません。15世紀の後半から16世紀前半にかけて、現在の川手（当時は革手）や加納、鷺山から長良にかけての地域にいくつもの大型の居館が築かれました。鷺山周辺では発掘調査もすすみ、当時の土岐氏の暮らしを物語る遺物も出土しています（本誌資料紹介をご覧ください）。美濃の中心地としての岐阜の始まりといえるでしょう。

約20年前に始まった岐阜城関連の発掘調査は現在も行われ、新たな発見が続いています。昨年の調査では、庭園の一部と見られる遺構や建物の礎石、列のように並べられた巨石などが見つかかり、信長居館の一端が徐々に明らかとなってきました。また、江戸時代の城では、昨年度およそ30年近くに及ぶ加納城の発掘調査が終了し、出土した資料も膨大なものとなっています。尾張藩奉行所の置かれた岐阜町とともにご紹介します。

富山市では近年、戦国時代末期の城館や集落跡の発掘調査が盛んに行われています。戦国大名の織田氏と上杉氏の勢力の狭間にあった越中には、小出城や願海寺城など戦の舞台となった城が多く残ります。遺跡からは保存状態の良い漆椀や木簡など当時の武士の生活を物語る資料も多数出土しています。このころの武家館と集

落が見つかった水橋金広・中馬場遺跡では、全国で初めて厚い板状の双六盤が出土しました。当館2階の楽市場でもおなじみの古代～近世に人気のあったボードゲームの盤です。また、富山市内中心部では江戸時代の富山藩主前田家の居城であった富山城の調査も進み、城の大手門跡や藩士の邸宅跡、さまざまな城下町の暮らしが明らかになっています。

中世から近世にかけては、現在の私たちの生活の基盤となる都市が確立してきた時代といえます。現在はほぼ同じ規模の県都である岐阜市と富山市ですが、その成り立ちは一様ではありません。政治・経済の中心であった城と城下町の発掘資料から現在のまちへと続く歴史を知ること、両市をより身近なものに感じていただければと思います。



双六盤（富山市水橋金広・中馬場遺跡出土）
16世紀

関連行事

◆講演会

①「岐阜・富山の城郭（仮）」

7月25日（日）14：00～

奈良大学文化財学科 教授 千田嘉博さん

②「佐々成政と越中（仮）」

8月8日（日）14：00～

富山市郷土博物館長 加藤達行さん

※事前に電話でお申し込みください（定員になり次第締め切り）。

◆展示説明会

8月1日、15日

各11：00～、14：00～ 当館学芸員

※特別展観覧者は、自由にご参加いただけます。

加藤栄三・東一記念美術館

～花は散るゆえに美しい～

加藤栄三・東一「花・はな展」

2010.4.20(火)～7.11(日)

花は世界のほとんどの国々で美の象徴とされ、花を愛する心は共通しています。

特に花や鳥・虫などを主題とする花鳥画は、山水画、人物画と並ぶ東洋絵画の一部門として独特の発展をみせ、写実的表現をとおして精神的なものを目指す宗教絵画から鑑賞絵画まで、幅広く愛好されてきました。

花は色、大きさ、形などにおいて、無限と思えるほどの変化をもっていますが、四季折々に様々な変化をみせる日本の気候は、華やかな花々を咲かせ我々の目を楽しませてくれます。

岐阜市美殿町出身の日本画家：加藤栄三・東一も、花の魅力に惹かれ多くの素描（スケッチ）・本画（完成作品）を描きました。

栄三は、花鳥画を描くにあたって次のように語っています。

「絵というものは形や色を写すばかりではなく、自分の心そのものを描くのが道だと思っています。従って心は普段でできるだけ澄んでいなければならぬ。感情が

荒れたり、憤ったりしたときに私の描く絵はやはりそういうものが描く絵ににじんできます。それゆえに私たちはその日その日を非常に大切にしたい。一期一会をおろそかにしたくないの



「花」 加藤栄三

です。今日は散る花、明日はこの花を見ることのできないかもしれないけれども、その時の見る花、その時に見る草に限りなき愛情をこめて描く、その明け暮れです。」

また「私は四季の花を見ながら、菊やダリアあるいは芙蓉だとか立派な花が日本にはありますが、なぜか私は、ふっと人にも知られないあの道端に咲く花が非常に好きなのです。」とも語っています。



「朝顔」 加藤東一

日本画では、作品の画題にも心配りが見られます。バラの花はよく描かれますが、商売をされる方は、「お客がバラバラ」といって嫌がられるとも聞きます。そこで「長春花」などと別称で呼ぶこともあります。ボタンの花は「花のなかの最も優れた花」という意味を込めて「富貴花」「花王」などと別称で画題をつけることもあります。

栄三・東一は、いずれ枯れゆく花に永遠の命を吹き込むことができないものかと、草花をモチーフに精魂を込めて多くの花鳥画を描きました。本展では、収蔵作品の中から、パステル・墨・水彩などで描いた素描とともに、「梅」「ボタン」「バラ」「菊」「水仙」などの花をモチーフに描いた本画を展示します。

一輪の花で心の窓が開かれてしまうことを「一華開発（いちげかいはず）」といいます。花に触れることによって心を癒されるという効果があります。

栄三・東一の作品をとおして、心に安らぎを感じていただければ幸いです。

歴博セレクション

和傘の世界

2010.6.11 (金) ~ 7.4 (日)

全国一の和傘産地として知られる岐阜市加納。その歴史は寛永16年(1639)松平光重が播州明石から加納へ移封の際、傘屋を連れてきたのが始まりと伝えられています。その後、本格的な生産の礎となったのは、宝暦6年(1756)永井直陳が加納藩主となり、下級武士の生計を助けるために和傘作りを奨励したことによります。

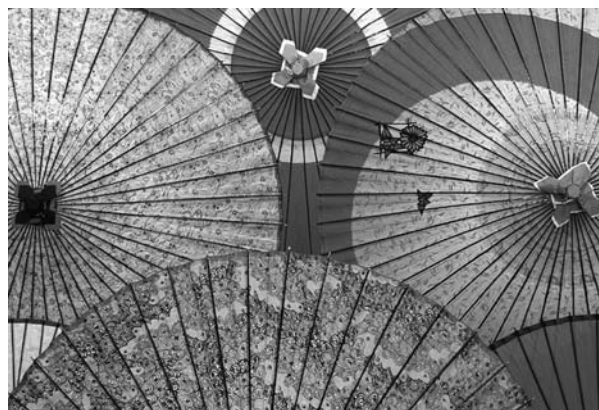
以後、一大産地としてその名を知られた加納の和傘でしたが、昭和20年代以降、洋傘の普及とともに日用品としての需要は減少し、その生産も減少の一途をたどってきました。

しかしながら、全国の和傘産地が消滅していくなか、加納は蛇の目傘や日傘などの「細物」を得意としていたことから、インテリアや芸能等での需要を確保してきました。また、伝統的に分業制をとってきたことから、多種の傘を大量に製造することができ、全国各地の神事や祭礼で使われる特色ある和傘の注文にも応じる力

を持っているのです。今なお続く加納の和傘作りは、このように日本の伝統文化の一翼を担っているといつて過言ではないでしょう。

当館では、開館以来当地の伝統的工艺品である和傘を広く紹介し、合わせてその歴史を探るため、資料の収集に努めてきました。今回は館蔵資料を中心に、和傘はもとより、製造用具、浮世絵などの関連資料も展示し、加納の和傘の技術と、日本人が持つ和傘に対する美意識をご紹介します。また、会場内では世界一大きいといわれる蛇の目傘も特別に公開します。

(※歴博セレクションは1階特別展示室の一部をつかって開催)



蛇の目傘

■分館 加藤栄三・東一記念美術館の展示■

本誌4ページで紹介した以外の、4月から8月の分館展覧会は以下のとおりです。

- 4月18日(日)まで 「収蔵作品でたどる栄三・東一展」「田中照子 日本画展」
- 4月20日(火)~5月30日(日) 「伊藤嘉晃 日本画展」
- 6月1日(火)~7月11日(日) 「片桐乙日子 日本画展」
- 7月13日(火)から 「鶺鴒に魅せられて」「サン・ヴァンサン大聖堂「聖母の御眠り」模写展」

■特集展示(2階 総合展示室内)■

2階の総合展示室の一角に特集展示コーナーを設置し、1~2ヵ月ごとにテーマを設けて資料を公開しています。4月から8月の日程は下記のとおりです。

- 5月23日(日)まで 「縄文・弥生時代の暮らし」
- 5月28日(金)~7月18日(日) 「林晃三(金華山焼)の世界」
- 7月23日(金)から 「鶺鴒」

■柳津歴史民俗資料室の展示■

分室・柳津歴史民俗資料室(岐阜市柳津町下佐波西1-15 もえぎの里2階)では、4月から8月まで次の日程で展示を行います。観覧は無料です。

- 4月29日(木祝)まで 「別府細工 ~美濃の金属工芸~」
- 5月1日(土)~5月30日(日) 「端午の節句」
- 6月1日(火)~7月4日(日) 「加納藩と柳津」
- 7月6日(火)~8月1日(日) 「覚えてますか?大阪万博」

みんなあつまれ!! お手玉大会

去る2月28日、博物館1階ラウンジにて企画展「ちょっと昔の道具たち」の催しである「みんなあつまれ!! お手玉大会」が中学生以下を対象に盛大に行われました。この企画展は当館定番といえる人気展覧会で、お手玉大会は3回目の開催です。

大会では、2つのお手玉を落とさずにまわす回数で競います。年齢、性別、経験はさまざまでしたが、予選から100回を超える記録が次々出るというレベルの高い大会になりました。普段の実力が思うように発揮できず悔し涙を見せる選手もいましたが、「前回出たときよりも今回は順位を上げることができたのでよかったです」というように自身の記録更新を喜ぶ声も聞くことができました。

そんな中、優勝したのは小学校6年生の男子

で、なんと参加者中ただ一人500回を記録しました。「初めて出た大会で緊張したけれど、決勝で500回という記録を出すことができて、とってもうれしいです」という感想を聞かせてくれました。



右から準優勝、優勝、第3位の参加者

信長学推進にむけて

岐阜市では信長をテーマにした町づくりを進めています。その一環として、博物館では、信長学構築の基盤整備をするため、信長に関するさまざまな資料を調査し情報を集積する事業をスタートさせました。

昨年度は調査を開始しただけですが、今年度以降順次、以下の資料集を編集し、それにもとづいて、信長伝記の決定版などを刊行する計画です。

信長文献目録

近代以降、信長をテーマにして歴史を意識しながら書かれた著作を網羅し、あわせて信長を学ぶための必読文献、重要文献もわかるようにします。

図録 信長

信長を主題にした絵画・木像、信長にまつわる伝承のあるさまざまな遺品を集めたグラ

フィックな資料集です。また、文献史料からうかがえる信長の身の廻りを飾ったさまざまな文物もリスト化して、信長の美意識をうかがえるようなものにします。

信長史料集

古文書、記録（日記）、禅僧法語、信長記（信長公記）など信頼性の高い史料を用いて、信長のできるだけ詳細な行動がわかるようにした史料集です。

現在各地の信長文書を調査するとともに、信長文書リストの完成度を高めようとしています。

3月22日に昨年度の成果を含めた報告会を博物館で開催しましたが、事業の一端は、HP (<http://nobunagagaku.com/>)でも発信しています。

平成21年度受贈資料

平成21年度には、下記のみなさまに貴重な資料を御寄贈いただきました。ここに厚くお礼申し上げます。(50音順、敬称略)

芳名	資料名
井川 松美	岐阜国体の提灯
稲見 利憲	昆虫用注射器セット1点、昆虫標本作製セット1点、魔法瓶1点、ローラースケート1点
岩井 弘光	「忠節橋」など絵ハガキ4件、写真2点、岐阜県復興宝鑑
宇佐美 隆	棒秤1点
白井日出男	アイスクリームボックス3点
宇野 照実	戦時貯蓄債券ほか18枚
江崎 武	「岐阜県新八景絵はがき」1組
大野 恒治	大野家文書一括、諸家売立目録一括
神谷 眞一	ステレオプレーヤー1点、レジスター1点、酒徳利3点
亀山 信夫	岐阜名所絵ハガキ27枚、岐阜県地理、郷土読本、歩兵第六十八聯隊史
河合 良信	月当番木札1点、東材木町旗1点
木村 倅子	郷土玩具及び関係図書一式
熊田 正雄	炭素線電球2点
小島 款	黒電話1点、算盤1点
後藤多賀子	天正検地帳など古文書37点、和本71冊、古地図12鋪、掛幅4幅
後藤 泰晴	貨幣(日本44、中国3、満州2)49枚
佐野 正隆	昭和40～50年代の岐阜県内観光パンフレット125件、「諸事取図ひ覚帳」
澤井多栄子	勅使河原直治郎あて書簡10通
柴田 嘉昭	長良尋常高等小学校職業指導
住井 一成	水団扇6点
角竹 弘	風袋1点
鷲見富士子	LPレコード4点
世古口 保	満洲出動記念写真帳1冊、岐阜城航空写真1枚
善光寺	教科書・ノート・パンフレット一括
園部 好延	箱階段1点
高木 洋	タイプライター“HERMES Baby”1点
棚橋 康二	岐阜県地理書ほか教科書・和本13件
玉井 康弼	岐阜国体関係資料、岐阜市関係メダル、図書類、相撲番付など一式
出口 重夫	各務於菟・沢田蘆月・国島十雨・伊藤百雲の短冊・色紙105枚
東松喜久雄	大東亜戦争一周年記念切手
中野 葉子	こけし衣装人形、博多どんたく人形など、観光土産人形5点
名和 正興	手提ガスランプ1点
丹羽 均	川海老用ウエ1点
松田藤一郎	不動明王二童子像1幅
松田 房徳	各務支考書簡1幅、後藤松陰漢詩1幅、上田聴秋発句2幅、上田聴秋自画賛1幅
松野 和正	実用草書宝鑑など近代図書
水戸加名男	背板1点、手桶1点、液用枘3点、しゃもじ1点
南澤 幸子	観光パンフレット「長良川の鵜飼」1枚・同「岐阜」1枚
宮脇 律郎	こけし人形・テープレコーダーなど、昭和40年代資料9件
村橋 好子	シルバー編機1点、糸巻器1点、かせ繰り器1点
森和子・中川武子	人絹布団・抱き人形など、近代生活資料
森 正	傘紙・岐阜市警防団メガホンなど、紙商及び近代生活関係資料23件
安田 博人	金華山焼7点、千歳窯徳利1口、国体記念バックル1点
矢野 倅子	晝表ゴム裏草履1点
山岡 享	岐阜団扇両面透かし3点、岐阜団扇尾関製1点、京団扇1点
山田 宣子	かるた2点
吉田 勇	昭和10～20年代硬貨及び紙幣一式
吉田 真也	枘3点

***** 館蔵資料紹介 *****

きりまるもんちらしなが えちようし
桐丸紋散長柄銚子

全長27cm、高さ9cm、銅製
16世紀前半 城之内遺跡

岐阜市長良の城之内遺跡から出土した銅製の銚子です。公家や武家の上流階級の宴会などでお酒をつぐのに使われました。いまは全体にさびて見る影もありませんが、全面に金メッキが施され、外面を取り囲むように銀のメッキで13個の桐丸紋が描かれており、もとはとてもきらびやかなものだったのでしょう。両側に注ぎ口のついた本体には柄が上から渡され、金具で止められています。柄の下には木製の柄の破片が残っていて、本来は金属の柄に接続するヒノキ製の長柄がついていたようです。

城之内遺跡には、天文元年（1532）に築かれた守護大名の土岐氏の居館である枝広館があったと考えられています。16世紀の前半には、長良川右岸の鷺山から城之内遺跡にかけて規模の大きな土岐氏の城館がいくつもつくられ、このあたりが当時の美濃国の政治の中心地であったことがうかがわれます。銚子の表面の装飾に使われている桐紋は、平安時代から天皇の衣の紋様として用いられ、室町時代においても皇室の権威の象徴として、足利将軍家をはじめ武将たちのあいだで貴ばれてきました。土岐氏は室町幕府が開かれた当初からの有力大名であり、この桐紋も将軍家から与えられたものかもしれません。

文献史料によると、枝広館は天文4年7月1日の大雨による長良川の大洪水で壊滅的な被害を受けました。この銚子もそのときの被害で流出したのでしょうか、洪水によって館の堀にできた堆積層の中から見つかっています。



利用の御案内

- **開館時間** 午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)
- **休館日** 毎週月曜日と祝日の翌日
(月曜日が祝日の場合は翌日)
※特別展開催中は変更することがありますのでご注意ください。

- **観覧料**
歴史博物館常設展、加藤栄三・東一記念美術館
高校生以上 300円 (団体240円)
小・中学生 150円 (団体 90円)
両館共通で観覧される場合
高校生以上 500円 (団体400円)
小・中学生 250円 (団体150円)
※市内の小中学生は無料、団体は20名以上
企画展 常設展料金でご覧いただけます。
特別展 そのつど定めた金額

- **交通案内** JR岐阜駅・名鉄岐阜駅から岐阜バスにて長良方面行きに乗り、「岐阜公園・歴史博物館前」で下車、すぐ東に歴史博物館があります。
公園内ロープウェイ乗り場すぐ隣に加藤栄三・東一記念美術館があります。

博物館だより No.74 2010. 4

編集・発行 岐阜市歴史博物館

〒500-8003 岐阜市大宮町2-18-1 ☎058(265)0010

(分館) 加藤栄三・東一記念美術館

〒500-8003 岐阜市大宮町1-46 ☎058(264)6410